

スカイレストラン

懐かしい電話の声に
出がけには髪を洗った
この店でサヨナラするよと
分かつていたのに

街明かり指でたどるの
夕闇に染まるガラスに
二人して食事に来たけど
誘われたわけは聞かない

もうすぐ転生するということです
待つている小鬼です
昔、D子と呼ばれていたみたいですが
記憶はドンドン薄れてきています

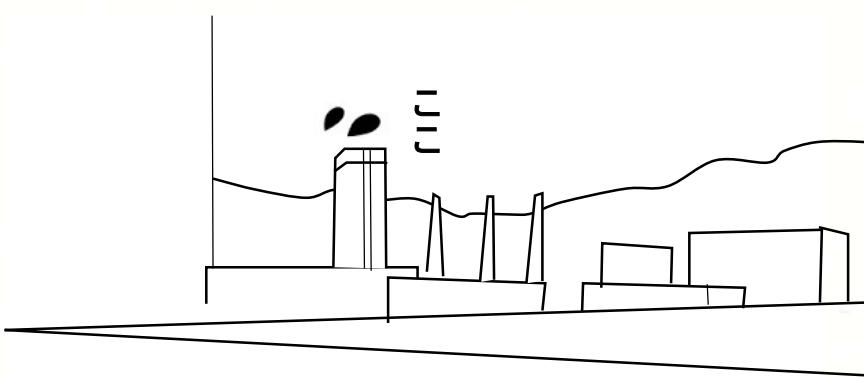
今日もまた一人
担当患児が死亡退院

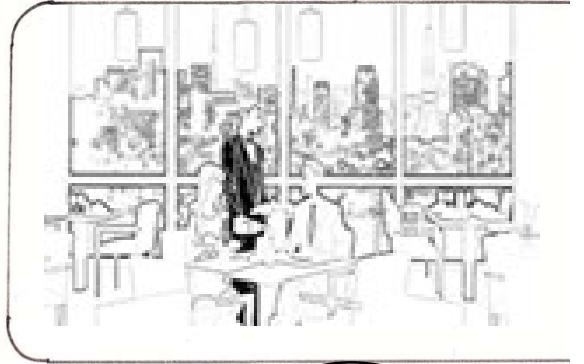


突き当たりにドアのある廊下
辛い記憶ばかりです



窓から遠くに見える
ホテルを眺めていました
最上階には
ワイフと行きつけの
スカイレストラン

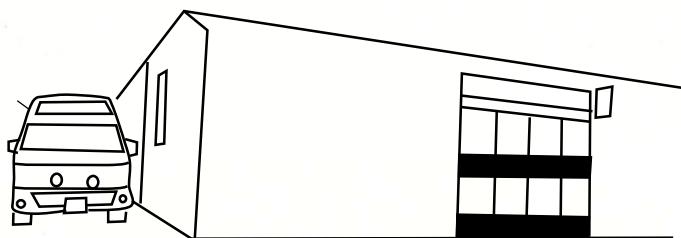








私が研修医になつたのは
20年ほど前のこと
血液・腫瘍内科の病棟研修から
始まりました







D子さんはJK



博多・天神に行きたいなー
高速バスかな、新幹線かな?

D子さんは
体調が悪くても
回診時は身体を起こしてくれました

窓ガラスが曇つていて
指で書いた落書き
カノジョの問いかけは、
余りにセンセーショナル
運命、そして無力な私に向けられた
静かな怒りを感じました



抗がん剤を投与すると
決まって高熱が出ました

ぼそつ

どうせ、私のことなん
て忘れてしまうよね

わな

熱は出るし、
吐き気が続いて、
体調悪いんだよね

忘れないよ
忘れるわけない

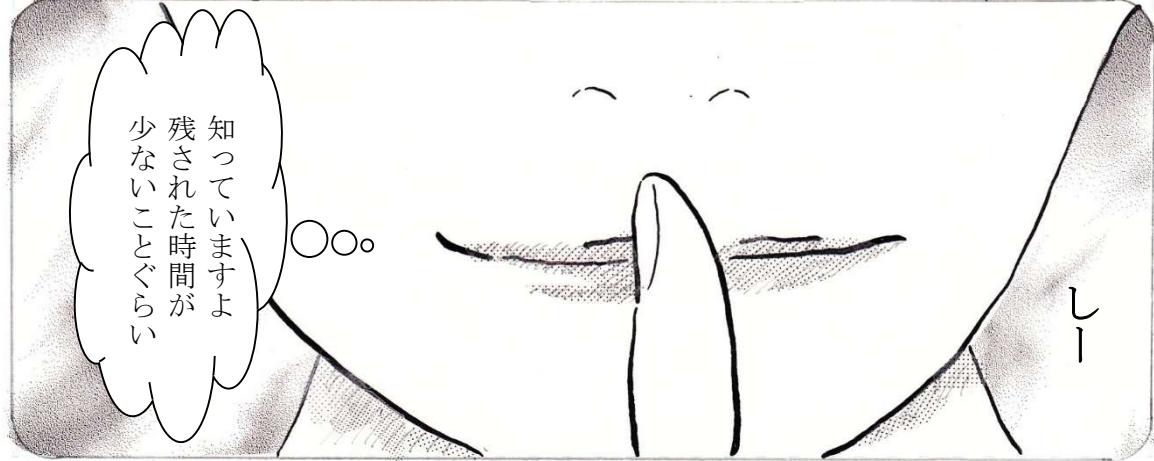
はい

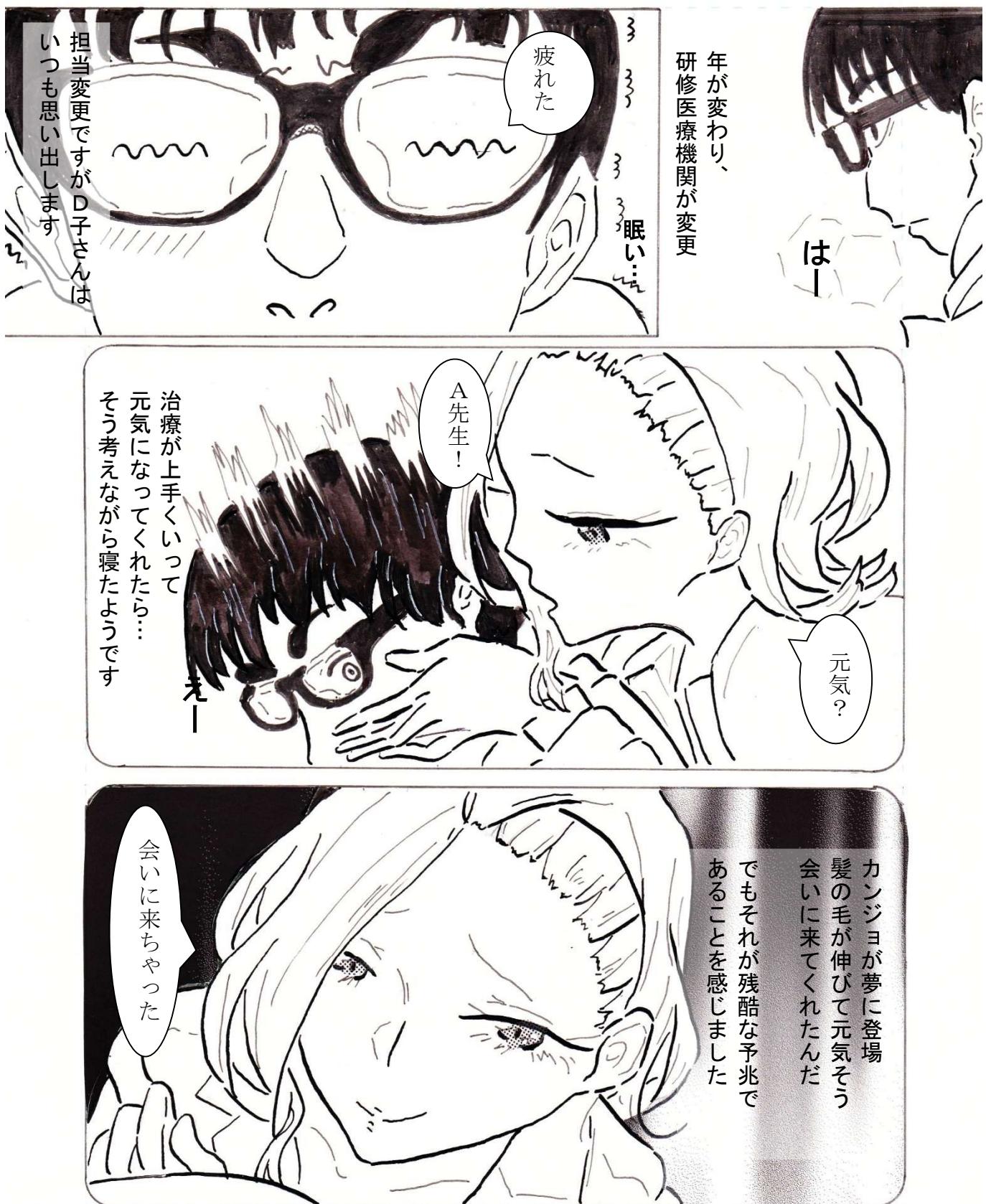


私ができることは
見守ることだけ













ワイフと スカイレストランでデート

もしここに彼女が来たって
席を立つつもりはないわ
誰よりもあなたのことは
知っている私でいたい

長いこと会わないうちに
貴方への恨みも消えた
今だけは彼女を忘れて
私を見つめて

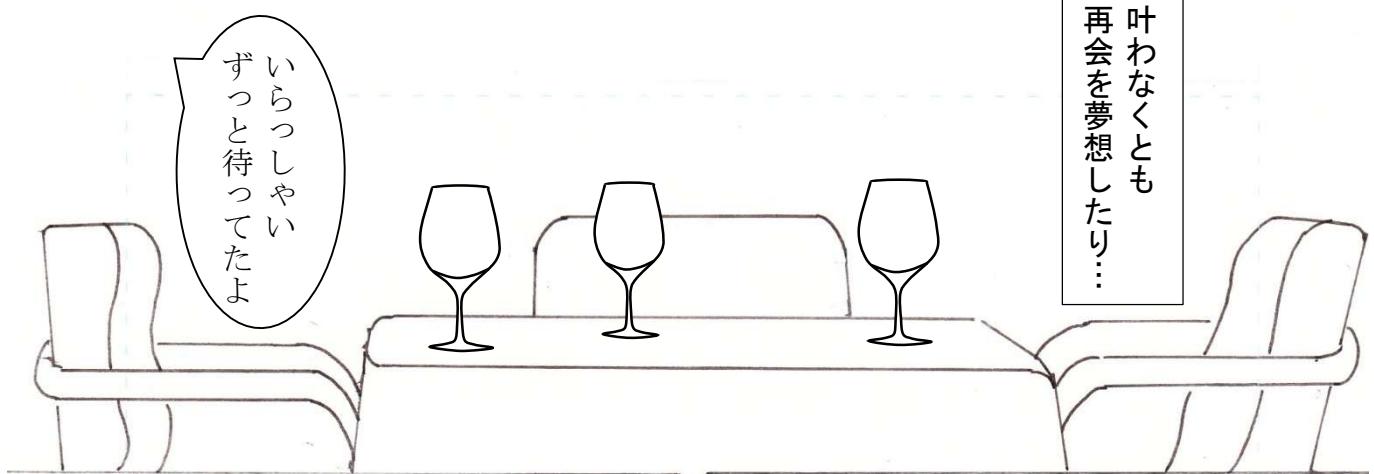
もし今、彼女が来たとしても
妻は席を立たないだろう
カノジョたちの戦いの壮絶さを
そして私が抱えてきた後悔を
誰よりも理解しているはずだから

どうしたの
ぼつとして

昔ここで食事の
約束をした子が
居たんだ

きっと心の中では別のカノジョも
いることは分かっています
でもハズは全力だつたはずです
それを支えていきたいなと思います





本当に彼女たちが望んでいたのは
本気の恋愛であつて
・
・
・

ちょっと
壁ドンは拙いです

A先生～
好きなんだよ～

A先生～
踊るよ～！～！

こんな経験させたかったな

ダンスなんて
経験ありません